

3年間のカリキュラムの連関の例

「教科・科目」の学習活動例(中学校3年間の事例)

「社会科・地理歴史科」にとっての言語活動の充実とは

第1学年

- ①感想を書く（無制限，大きな枠，加減式）
「〇〇について学びました。あなたの考えを答えなさい」

=意見を持つ

- ②字数を決める
（制限された枠組みの中で自分の伝えたいことを吟味させる）

=自分の意見の妥当性
や要点など自分の意見
を振り返りつつ考察

第2学年

- ③求める視点を制限する
「〇〇について，〇〇という考え方がある。それについてあなたの考えを…」
「〇〇について，〇〇の立場から考えられることを…」
（求められる論点に沿っての記述）

=立場，状況＝多面的・多角的に
考察，客観性を持って自分の意見
を振り返る（主観から客観へ）

- ④「…と思った」に加え，「その理由」を示す事を求める。
「…について，あなたの考えとその理由を答えなさい」

=根拠に基づいた
意見形成

第3学年

- ⑤資料の中から根拠を示し、自らの考えを根拠に則して記述させる。

=資料における根拠の吟味、意見との整合性
（論理的な構成，資料そのものの批判）

※この学校では、社会科教科会の方針として、担当者がどの学年を担当しても、定期試験、単元末のまとめなどで、これらに沿って言語活動の充実を図る

情報を収集する技能

手段を考えて課題解決

【1】調査活動を通して

○野外調査活動

- ・調査の観点(数、量、配置等)に基づいて、現地の様子や実物を観察し情報を集める
- ・景観のスケッチや写真撮影等を通して観察し、情報を集める
- ・地図を現地に持って行き、現地との対応関係を観察し、情報を集める

○社会調査活動

- ・行政機関や事業者、地域住民等を対象に聞き取り調査、アンケート調査などを行い、情報を集める

【2】諸資料を通して

○資料の種類

- ・地図(様々な種類の地図)や地球儀から、位置関係や形状、分布、面積、記載内容などの情報を集める
- ・年表から、出来事やその時期、推移などの情報を集める
- ・統計(表やグラフ)から傾向や変化などの情報を集める
- ・新聞、図書や文書、音声、画像(動画、静止画)、現物資料などから様々な情報を集める

○その他

- ・模擬体験などの体験活動を通して人々の仕事などに関する情報を集める
- ・博物館や郷土資料館等の施設、学校図書館や公共図書館、コンピュータなどを活用して映像、読み物や紀行文、旅行経験者の体験記など様々な情報を集める
- ・コンピュータや情報通信ネットワークなどを活用して、目的に応じて様々な情報を集める

【3】情報手段の特性や情報の正しさに留意して

- ・資料の表題、出典、年代、作成者などを確認し、その信頼性を踏まえつつ情報を集める
- ・情報手段の特性に留意して情報を集める
- ・情報発信者の意図、発信過程などに留意して情報を集める

情報を読み取る技能

会的収集した情報・考え

【1】情報全体の傾向性を踏まえて

- ・位置や分布、広がり、形状などの全体的な傾向を読み取る
- ・量やその変化、区分や移動などの全体的な傾向を読み取る
- ・博物館や郷土資料館等の展示品目の配列から、展示テーマの趣旨を読み取る

【2】必要な情報を選んで

○事実を正確に読み取る

- ・形状、色、数、種類、大きさ、名称などに関する情報を読み取る
- ・方位、記号、高さ、区分などを読み取る(地図)
- ・年号や時期、前後関係などを読み取る(年表)

○有用な情報を選んで読み取る

- ・学習上の課題の解決につながる情報を読み取る
- ・諸情報の中から、目的に応じた情報を選別して読み取る

○信頼できる情報について読み取る

【3】複数の情報を見比べたり結び付けたりして

- ・異なる情報を見比べ(時期や範囲の異なる地域の様子など)たり、結び付け(地形条件と土地利用の様子など)たりして読み取る
- ・同一の事象に関する異種の資料(グラフと文章など)の情報を見比べたり結び付けたりして読み取る
- ・同種の資料における異なる表現(複数の地図、複数のグラフ、複数の新聞など)を見比べたり結び付けたりして読み取る

【4】資料の特性に留意して

- ・地図の主題や示された情報の種類を踏まえて読み取る
- ・歴史資料の作成目的、作成時期、作成者を踏まえて読み取る
- ・統計等の単位や比率を踏まえて読み取る

【1】⇒【4】へ向かうことを意識した、計画的な資質・能力の育成が図られているか

情報をまとめる技能

読み取った情報

【1】基礎資料として

- ・聞き取って自分のメモにまとめる
- ・地図上にドットでまとめる
- ・数値情報をグラフに転換する(雨温図など)

【2】分類・整理して

- ・項目やカテゴリーなどに整理してまとめる
- ・順序や因果関係などで整理して年表にまとめる
- ・位置や方位、範囲などで整理して白地図上にまとめる
- ・相互関係を整理して図(イメージマップやフローチャートなど)にまとめる
- ・情報機器を用いて、デジタル化した情報を統合したり、編集したりしてまとめる

【3】情報を受け手に向けた分かりやすさに留意して

- ・効果的な形式でまとめる
- ・主題に沿ってまとめる
- ・レイアウトを工夫してまとめる
- ・表などの数値で示された情報を地図等に変換する

小・中学校社会編、高等学校地理歴史・公民「解説」

pp.152-153、186-187、364-365、174-175

生徒をめぐる環境の変化や意識の現況

PISA2022（得点の国際比較） 日本 日本の平均得点と統計的な有意差がない国

OECD加盟国（37か国）

順位	数学的リテラシー	平均得点	読解力	平均得点	科学的リテラシー	平均得点
1	日本	536	アイルランド*	516	日本	547
2	韓国	527	日本	516	韓国	528
3	エストニア	510	韓国	515	エストニア	526
4	スイス	508	日本	516	カナダ*	515
5	カナダ*	497	韓国	515	フィンランド	511
6	オランダ*	493	エストニア	511	オーストラリア*	507
7	アイルランド*	492	カナダ*	507	ニュージーランド*	504
8	ベルギー	489	アメリカ*	504	アイルランド*	504
9	デンマーク*	489	ニュージーランド*	501	スイス	503
10	イギリス*	489	オーストラリア*	498	スロベニア	500
	イギリス*	489	フィンランド	490		
	OECD平均	472	OECD平均	476	OECD平均	485

全参加国・地域（81か国・地域）

順位	数学的リテラシー	平均得点	読解力	平均得点	科学的リテラシー	平均得点
1	シンガポール	575	シンガポール	543	シンガポール	561
2	マカオ	552	アイルランド*	516	日本	547
3	台湾	547	日本	516	マカオ	543
4	香港*	540	韓国	515	台湾	537
5	日本	536	台湾	515	韓国	528
6	韓国	527	エストニア	511	エストニア	526
7	エストニア	510	日本	516	香港*	520
8	スイス	508	マカオ	510	カナダ*	515
9	カナダ*	497	カナダ*	507	フィンランド	511
10	オランダ*	493	アメリカ*	504	オーストラリア*	507
			ニュージーランド*	501		

【出典】OECD生徒の学習到達度調査PISA2022のポイント(国立教育政策研究所)から作成

国名の後に「」が付されている国・地域は、PISAサンプリング基準を一つ以上満たしていないことを示す。

青少年のインターネットの利用状況

2022年度※1

▼インターネット利用時間の1日あたり平均

小学生 中学生 高校生
 約3時間34分 約4時間37分 約5時間45分

○インターネットを利用すると回答した青少年の平均利用時間は、前年と比べ**17分増加**し、**約4時間41分**。

○目的ごとの平均利用時間は**趣味・娯楽**が最も多く、**約2時間49分**。

子供専用のスマホ保有率

2022年度※2
 (2010年度)

小学生

64.0%
 (0.0%)

中学生

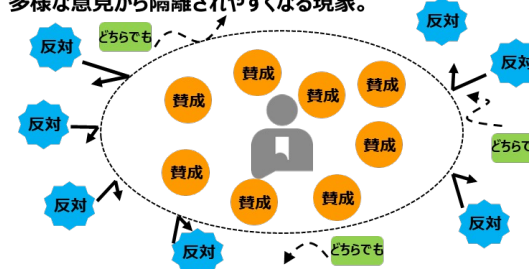
91.0%
 (1.3%)

高校生

98.9%
 (3.8%)

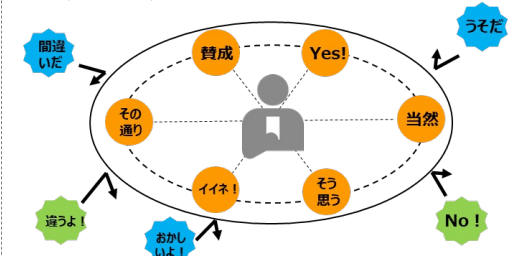
フィルターバブル現象

自分の好む情報「だけ」に囲まれ、
 多様な意見から隔離されやすくなる現象。



エコーチェンバー現象

同じような意見が、閉ざされた空間の中で反響して
 大きくなっていく現象

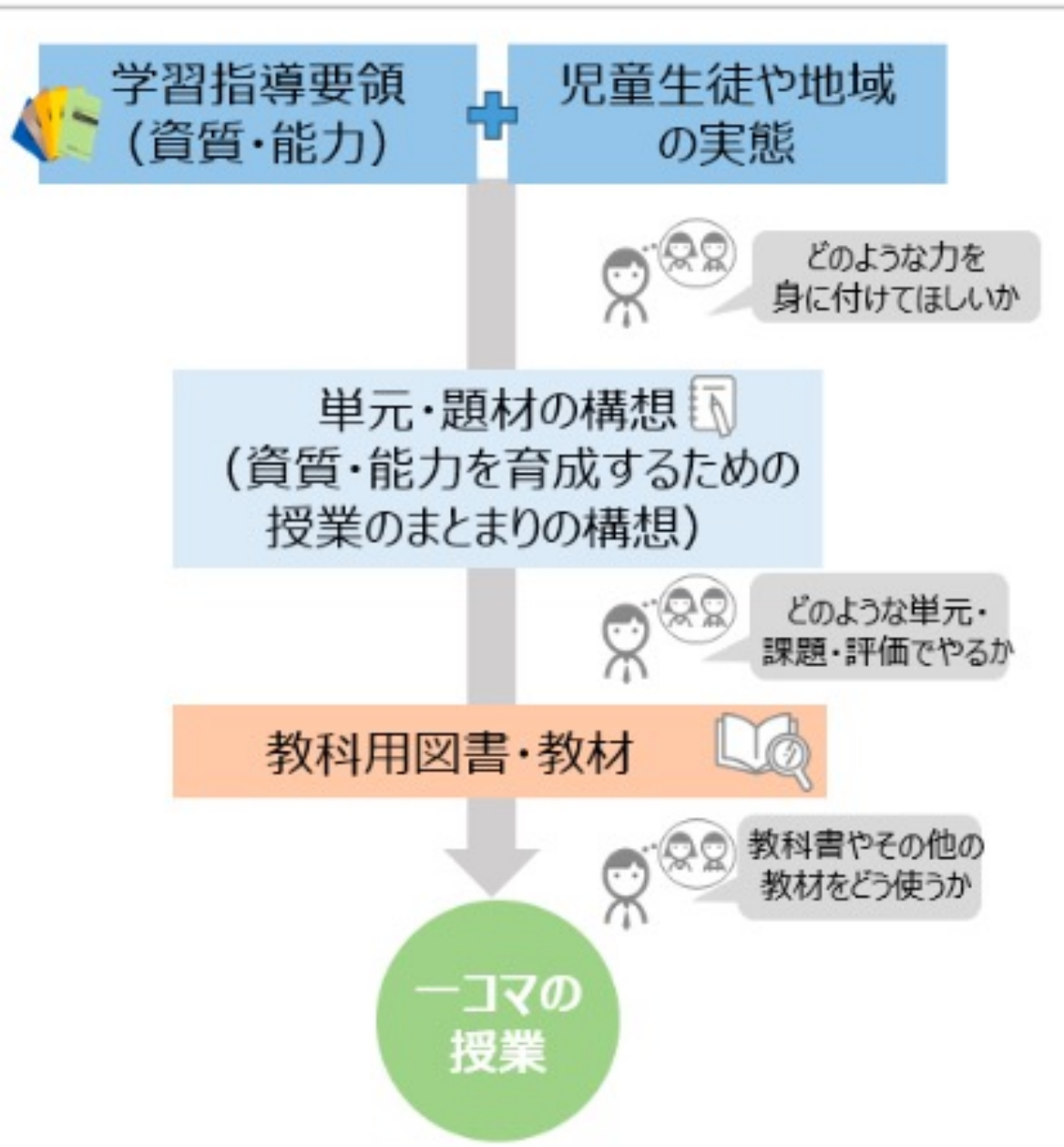


（出典）※1 内閣府 令和4年度 青少年のインターネット利用環境実態調査 調査結果（概要）。

※2 ※1をもとに内閣府で作成。平成26年度より調査方法等を変更したため、平成25年度

以前の調査結果を直接比較ができないことに留意。「小学生」の調査対象は、満10歳以上。

学習指導要領を授業づくりにどう活用するか



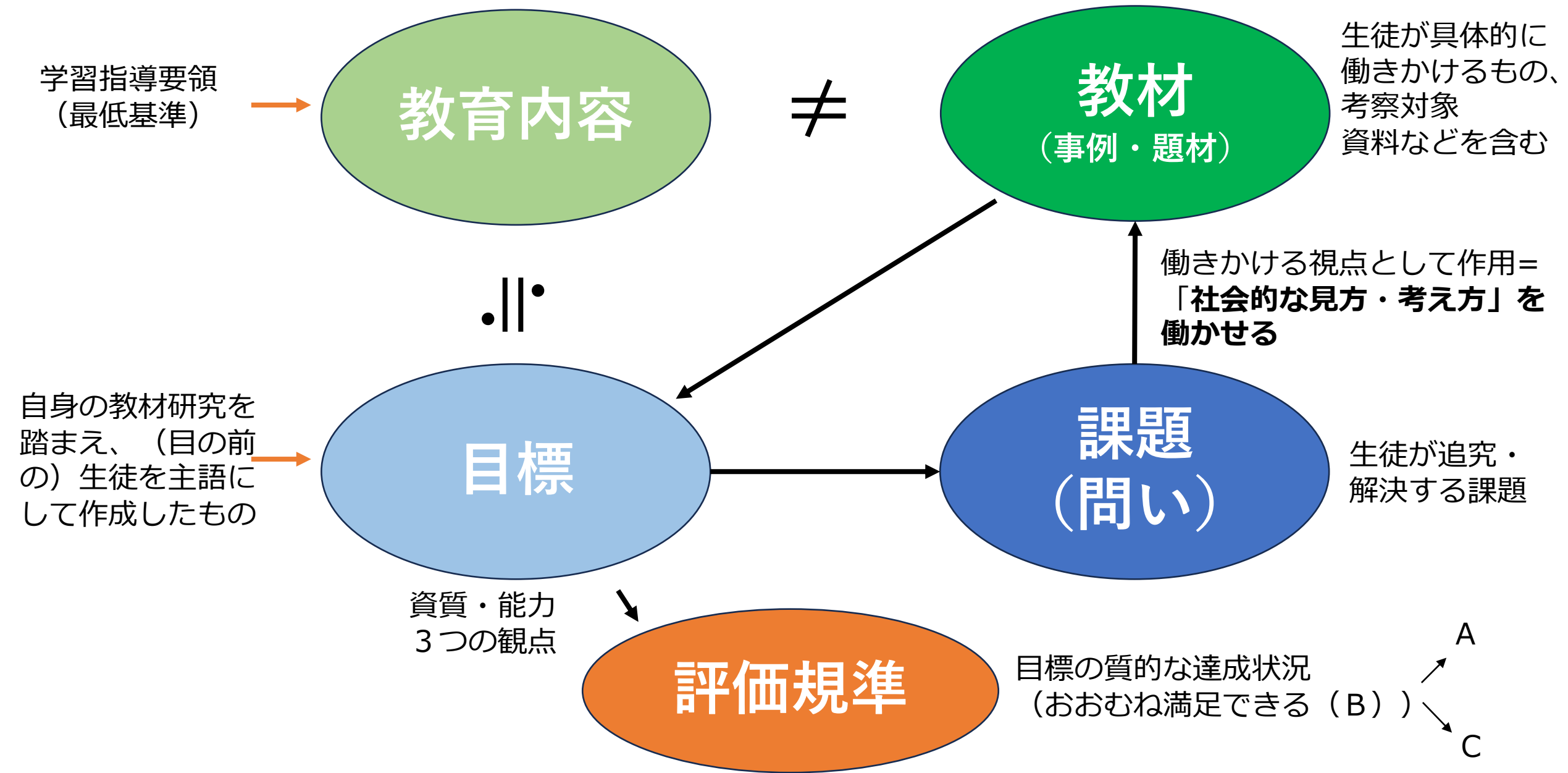
主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善を考える上では、1コマ1コマの授業の中で全てを実現しようとするのではなく、単元という一定のまとまりの中で実現していくことが不可欠

図は、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」のためのサポートマガジン『みるみる』より



<https://mext-curriculum-gov.note.jp/m/m3b4a6bc792d6>

社会系教科目の授業をつくる上で重要な教育概念



初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について (令和6年12月25日中央教育審議会諮問)

主な審議事項

① 質の高い、深い学びを実現し、分かりやすく使いやすい 学習指導要領の在り方

- 生成AIが発展する状況の下、知識の概念としての習得や深い意味理解を促し、学ぶ意味や社会とのつながりが重要となる中、そうした授業改善に直結する学習指導要領とするための方策（特に、各教科等の中核的な概念等を中心に、目標・内容を一層構造化）
- 目標・内容の記載に表形式等を活用すること、学校種間・教科等間の関係を俯瞰しやすくすることのほか、デジタル技術を活用した工夫の在り方
- 重要な理念の関係性の整理（「主体的・対話的で深い学び」、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」、「学習の基盤となる資質・能力」等）
- デジタル学習基盤の活用を前提とした、資質・能力をより育成するための各教科等の示し方
- 学習改善・授業改善に効果的な評価の観点や頻度、形成的・総括的評価の在り方（特に、「主体的に学習に取り組む態度」をはじめ観点別学習状況の把握をより豊かな評価につなげるための改善）

③ 各教科等やその目標・内容の在り方

- 小中高等学校を通じた情報活用能力の抜本的向上を図る方策（生成AI等に関わる教育内容の充実、情報モラルやメディアリテラシーの育成強化を含む）
- 質の高い探究的な学びを実現するための「総合的な学習の時間」、「総合的な探究の時間」の改善の在り方（情報活用能力の育成との一体的な充実等を含む）
- 高等教育段階でデジタル・理数分野への学部転換等の取組が進む中で、初等中等教育段階における文理横断・文理融合の観点からの改善の在り方
- 生成AIの活用を含めた今後の外国語教育の在り方や、手軽に質の高い翻訳も可能となる中で外国語を学ぶ意義についての考え方
- 教育基本法、学校教育法等に加え、こども基本法の趣旨も踏まえた主体的に社会参画するための教育の改善の在り方
- 多くの教科・科目の構成の改善が行われた高等学校教育について、その一層の定着を図るとともに、職業教育を含めた今後の改善の在り方
- 特別支援学級や通級指導に係る特別的教育課程、自立活動の充実等を含む、障害のある子供の教育的ニーズに応じた特別支援教育の在り方
- 幼児教育と小学校教育との円滑な接続の改善の在り方、設置者や施設類型を問わず、幼児教育の質の向上を図る共通の方策

② 多様な子供たちを包摂する柔軟な教育課程の在り方

- 興味・関心や能力・特性に応じて子供が学びを自己調整し、教材や方法を選択できる学習環境デザイン的重要性、デジタル学習基盤を前提とした新たな時代にふさわしい学びや教師の指導性の在り方
- 教師に「余白」を生み、教育の質の向上に資する可能性も含めた、子供たちの可能性が輝く柔軟な教育課程編成の促進の在り方（各種特例校制度等を活用しやすすること、標準授業時数に係る柔軟性、学習内容の学年区分に係る弾力性、単位授業時間や年間の最低授業週数の示し方）
- 高等学校の生徒の多様性に応える柔軟な教育課程の実現のための、全日制・定時制・通信制を含めた諸制度の改善の在り方
- 不登校児童生徒や特定分野に特異な才能のある児童生徒など、各学校が編成する一つの教育課程では対応が難しい子供を包摂するシステムの構築に向けた教育課程上の特例等の在り方

④ 教育課程の実施に伴う負担への指摘に真摯に向き合うことを含み、学習指導要領の趣旨の着実な実現のための方策

- 教育課程の実施に伴う過度な負担や負担感が生じにくい在り方（学習指導要領や解説、教科書、入学者選抜、教師用指導書を含む）
- 現在以上に増加させないことを前提とした年間の標準総授業時数の在り方、教育課程の実施に伴う負担に留意した上での、現代的な諸課題を踏まえた様々な教育の充実の在り方
- 新たな学びにふさわしい教科書の内容や分量、デジタル教科書の在り方
- 情報技術など変化の激しい分野において、教師の負担軽減を図りつつ最新の教育内容を扱うことを可能とするための方策
- 各学校での柔軟な教育課程編成を促進し、多様な取組の展開に資する、教育委員会への支援強化、指導主事等の資質・能力の向上の在り方
- コミュニティ・スクールを含む地域や家庭との連携・協働を促進しつつ、過度な負担を生じさせずにカリキュラム・マネジメントを実質化する方策
- 学習指導要領の趣旨・内容について、保護者をはじめ社会全体と共有するとともに、学校種を超えて一人一人の教師に浸透を促す方法の在り方

①より

○生成AIが発展する状況の下、**知識の概念としての習得や深い意味理解**を促し、学ぶ意味や社会とのつながりが重要となる中、そうした授業改善に直結する学習指導要領とするための方策（特に、各教科等の**中核的な概念等を中心に、目標・内容を一層構造化**）

○**学習改善・授業改善に効果的な評価**の観点や頻度、**形成的・総括的評価の在り方**（特に、「主体的に学習に取り組む態度」をはじめ観点別学習状況の把握をより豊かな評価につなげるための改善）

③より

○教育基本法、学校教育法等に加え、こども基本法の趣旨も踏まえた**主体的に社会参画するための教育の改善**の在り方

○多くの教科・科目の構成の改善が行われた**高等学校教育について、その一層の定着を図るとともに、職業教育を含めた今後の改善の在り方**

②より

○**興味・関心や能力・特性に応じて子供が学びを自己調整し、教材や方法を選択できる学習環境デザイン**の重要性、**デジタル学習基盤を前提とした新たな時代にふさわしい学びや教師の指導性の在り方**

ご清聴ありがとうございました

岐中社の研究のご発展の一助に
なれば幸いです